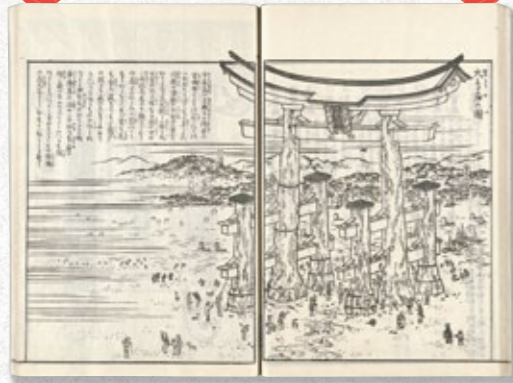


宮島歴史散歩 ～社寺めぐり～



令和5年(2023)3月
県立広島大学宮島学センター

はじめて宮島を訪れた方は、ぜひ次のQRコードを読み取って、観光サイト「はじめての宮島」をご利用ください。

コース

宮島棧橋

海岸通り

五重塔・千畳閣

厳島神社



日本語版



英語版

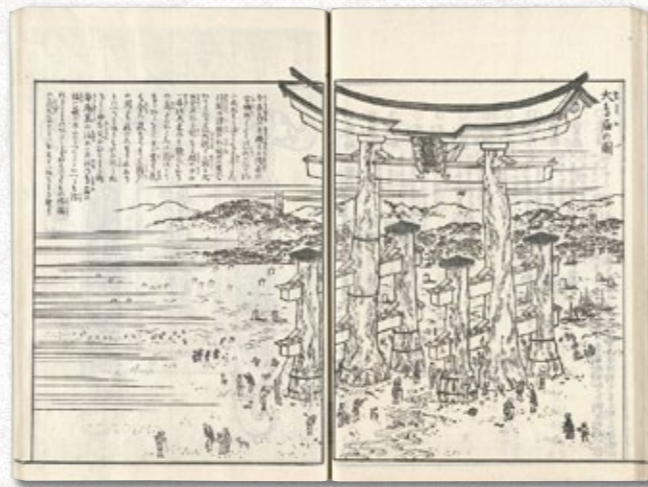
※このパンフレット及びサイトは、平成29～30年度県立広島大学重点研究(学長プロジェクト)「地域文化資源の学術研究による新たな魅力ある観光情報の発信—世界遺産「厳島神社」と宮島を中心として—」と、令和4年度宮島学センター企画展示「宮島歴史散歩～大願寺から大元神社まで～」の成果を活用して作成しました。著作権保護のため、複製や二次利用はご遠慮ください。

このパンフレットの裏面(マップ部分)のQRコードを読み取ると、県立広島大学宮島学センターが所蔵する江戸時代の名所図会『芸州厳島図会』(天保13年(1842))の挿絵と、現在の宮島の写真が並べて表示されます。各スポットの解説もありますので、ぜひお試しください。

『芸州厳島図会』とは

天保13年(1842)、広島・大坂(大阪)で売り出された宮島の名所図会。編著者は広島藩士の岡田清です。彼は国学者であり歌人でもありました。

全十巻のうち一巻から五巻までは「名所図会」で、宮島の名所や旧跡、年中行事などを挿絵とともに紹介しています。六巻から十巻は「宝物図会」で、美術館の展示図録のように、厳島神社の宝物を詳細に描き、解説を付しています。



おとりい 大鳥居の図『芸州厳島図会』



かなどりい 金鳥居『芸州厳島図会』



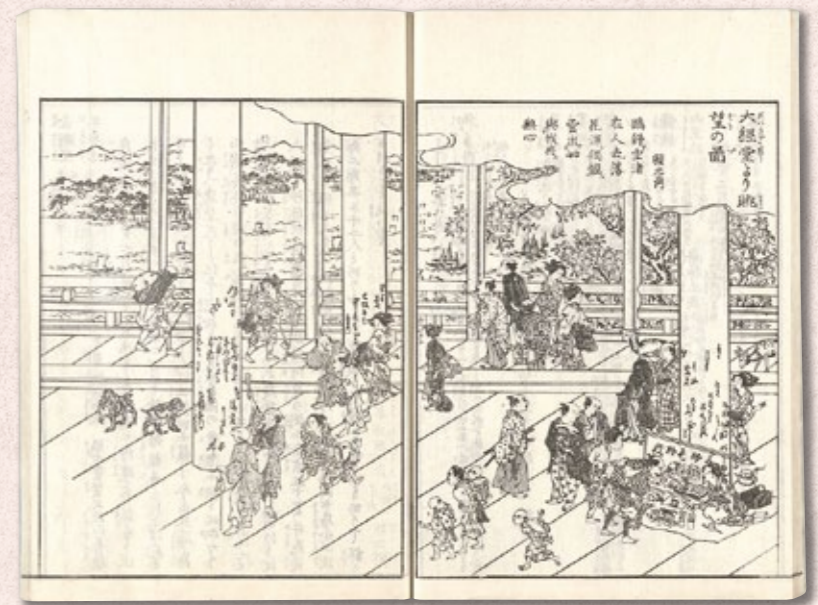
さいわいじんじや 幸神社周辺(平成30年撮影)

町並みの変化や、江戸時代の宮島参詣の様子をお楽しみください。

〈解説を付した場所〉

棧橋前広場、誓真地蔵・釣井、要害山、今伊勢社、存光寺、陸軍省石柱、徳寿寺、不動堂、宝寿院、北之神社、町家通り、宮島の歌舞伎芝居、幸神社、光明院、宮島奉行所跡、五重塔、千畳閣、神馬屋跡、三翁神社、滝町、棚守屋敷跡、上卿屋敷、僧坊跡、粟島神社、大聖院、大願寺、宮島歴史民俗資料館、清盛神社、経尾、石風呂跡、宮島ホテル跡、大元神社など。

例えば、「千畳閣」には、次のような解説を記載しています。



だいきょうどう 大経堂より眺望の図『芸州厳島図会』

この図は、大経堂の内部を描いた図です。大経堂とは、現在の豊国神社(通称千畳閣)のことです。

天正15年(1587)3月18日、関白豊臣秀吉は、九州に向かう途中で宮島に立ち寄り、塔岡に経堂を建立して一月に一度の千部経を読誦させることを発願しました。安国寺恵瓊を通じて建立費用の米1万石を支給し、厳島の本願である大願寺が建立にあたりました。秀吉が亡くなったことから、壁がなく天井が張られていない未完成の建物であると考えられています。江戸時代には釈迦三尊象が本尊として安置され、「大経堂」や「千畳敷」と呼ばれていました。壁がなく天井が張られていない空間は、現在でも参詣者の納涼の場としても親しまれています。

明治時代、神仏分離後に本尊が大願寺に移され、豊臣秀吉を祀る豊国神社となりました。

宮島歴史散歩～社寺めぐり～マップ



宮島には、江戸時代の町並みを感じさせる場所が数多くあります。

このマップでは、江戸時代に成立した宮島のガイドブック『芸州厳島図会』に

紹介されている名所や旧跡を中心に解説しています。

現地と『芸州厳島図会』の挿絵を比較し、江戸時代の町並みを想像して楽しんでください。



【利用方法】

お手持ちのスマートフォンで、ご覧になりたい場所のQRコードを読み取ってください。

ブラウザ上に、周辺の『芸州厳島図会』の挿絵と説明が表示されます。

フェリーターミナル

県立広島大学宮島学センター